



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和6年6月6日

第3号

「百花繚乱」 ～ 一人一人が咲き誇るために ～

校長 山田 美鈴

<本校美術部制作>



体育祭の取組が始まった直後スローガン「百花繚乱」を知り、何というセンスの良さかと、感動しました。「百花繚乱」には様々な花が咲くこと以外に「秀でた人物が多く出て、優れた立派な業績が一時期にたくさん現れるにぎやかなこと」という意味ももち合わせています。(学研：四字熟語辞典) 体育祭当日は石神井中学校の生徒全員が主役となって、スローガン通りみごとな花を咲かせてくれました。

「今回の体育祭は今ここにいるメンバーでできる最初で最後の体育祭です。」「一人一人が競技だけではなく係活動等すべてに力を尽くさなければ体育祭は成功しません。」こういった体育祭実行委員の力強い言葉は、

全校生徒の心に響きました。連日早朝から練習準備、昼休みの打ち合わせ、放課後の練習と、体育祭実行委員の努力を無駄にはしてはいけないという気持ちに、誰もがなったことでしょう。

当然各教室を覗けば優勝を掲げたスローガンやコメントが飾られていましたが、全校生徒で創り上げるという思い、クラスで団結するという思い、そのために自分がやらなければ！というそれぞれの熱く固い思いがあったからこそ、みごとな体育祭となりました。

勝敗がつきまとうものには必ず勝者と敗者がいます。でも「勝つこと」と「負けないこと」には、実は大きな違いがあります。「勝つこと」は過去の結果から“無理かもしれない”という状況の中でも、瞬間にして想像していなかった莫大な力を発揮すれば、勝てるということもあり得ます。「火事場の馬鹿力」とはこのことです。しかし「負けないこと」とはまさに心の強さであって、どんな状況になってもあきらめない、へこたれないという真の強さのことです。今回の体育祭で競技中、先頭を走っていたにもかかわらず途中で転倒したり足がもつれたりしてしまい、順位が下がってしまった人がいました。それでもゴールラインに行き着くまで力を抜くような生徒は、誰一人いませんでした。順位は下がったとしても、負けない姿の表れであり、人としての強く美しい姿と言えましょう。

これから変化の激しい社会に出ていく生徒たちが、いかなる状況にあってもあきらめずへこたれず、前を向いて明るく挑戦しゆく逞しさは、こういった学校行事を通して培っていくものです。

体育祭当日の午後、練馬区教育委員会教育指導課長がお見えになりました。本部席で最後の閉会式までご覧いただき、すべてに感動されていらっしゃいました。生徒の颯爽たる姿を指導課長に見ていただくことができ、私も誇らしく思いました。お礼のご挨拶をした際に、指導課長の目には感動の涙があふれていました。(以下教育指導課長からのメール文です)

先日は素晴らしい体育祭をお見せいただきありがとうございました。

石神井中の子供たちがひたむきに取り組む姿、仲間と支え合い励まし合う姿に胸が熱くなりました。本番に向けて目標をもち、準備や練習に子どもたち自身が真剣に取り組んできたこともよく分かりました。先生たちが影になり日向になり、子供たちを温かく見守り、力強く支えてきた様子もよく伝わってきました。学校行事の意義を再認識できた一日でした。